



概要

留萌市は、人口の減少やマイカーの普及により市内路線バスの利用が減少しており、また、地形等の関係から市内路線バスが運行できない公共交通空白地域もあり、少子高齢化による市民の交通手段の確保が課題となっている。このため、現行路線の再編や公共交通空白地域へのコミュニティバス・乗合タクシーの導入、過疎医療バス・スクールバスの再編等の調査検討を実施する。

地域公共交通の現況

- ・JR留萌本線(留萌駅、大和田駅、藤山駅、幌糠駅、峠下駅、瀬越駅、礼受駅)
- ・沿岸バス(株)(地域内8路線、郊外6路線、都市間1路線)
- ・中央バス(株)(都市間2路線)、道北バス(株)(都市間1路線)
- ・スクールバス(藤山町、礼受町)
- ・過疎医療バス(峠下町地区、中幌地区、樽真布地区 週1便)

地域公共交通の課題

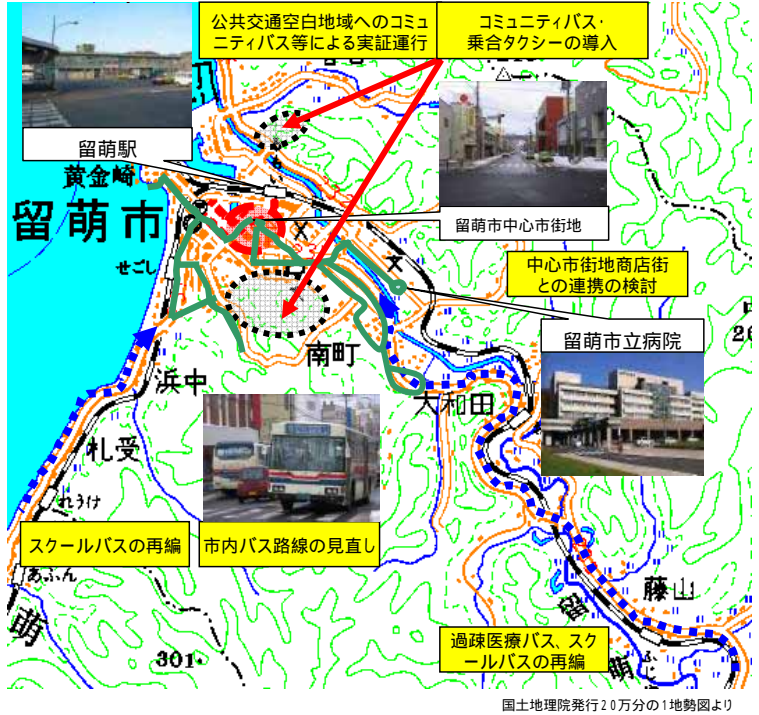
- ・市内路線バスの利用者減少
- ・交通不便・公共交通空白地域の交通手段の確保
- ・高齢者等の通院・買物等の移手段の確保

調査の主な内容

- ・現況交通実態調査
- ・利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)
- ・公共交通空白地区でのコミュニティバスの試験運行

策定する地域公共交通総合連携計画の構想(予定)

- ・市内バス路線の見直し
- ・コミュニティバス・乗合タクシーの導入
- ・公共交通空白地域へのコミュニティバス等による実証運行
- ・中心市街地商店街との連携
- ・過疎医療バス、スクールバスの再編



国土地理院発行20万分の1地勢図より

留萌市地域公共交通活性化協議会 調査事業の取組状況

主な調査の実施内容

- 現況交通実態調査
 - ・各種統計資料等により留萌市の概要、公共交通実態調査及び市内路線バス乗降調査(H21.10.8)を実施。
 - ・利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)
 - ・住民2,500世帯を対象に、移動実態や新たな公共交通システムを導入した場合の利用意向等の把握を目的としたアンケート調査を実施。(H21.10~11月)
- コミュニティバスの試験運行
 - ・地元バス会社と協力して、公共交通空白地域と中心市街地や市立病院を結ぶルートによる試験運行を実施。(H21.11.2~11.15)
- その他
 - ・公共交通空白地域の住民を対象に、今後の交通体系のあり方に係るニーズ把握を目的としたグループヒアリングを実施。(H21.12.14)

協議会開催状況

6回開催

分科会等開催状況

-

回数は平成21年度未までの開催予定

予定している連携計画の内容

- 新たな循環バス路線の構築(実施主体:バス事業者、実施時期:H22~)
 - ・市民の生活移動の主軸となる中心市街地と主要施設を結ぶ循環バス路線の構築や住民ニーズ等に即した通院、買物バスのルートを設定。
- 公共交通空白地域への路線整備(実施主体:留萌市、バス事業者、タクシー事業者、実施時期:H22~)
 - ・公共交通空白地域において乗合タクシーの導入や小型乗合車両によるバス路線を整備するとともに、スクールバスの活用やデマンド運行の導入を検討する。
- 待合所機能の整備(実施主体:留萌市、バス事業者、商工会議所、商業振興組合、実施時期:H22~)
 - ・空き店舗スペース等を活用し各バス路線のスムーズな乗継ぎに配慮したバス待合所を市中心部に整備。
- 利用促進に向けた取組の実施(実施主体:留萌市、留萌市教育委員会、公共交通事業者、商工会議所、地域企業など、実施時期:H22~)
 - ・各公共交通の情報を一元化したリーフレットの作成・配布、小中学生を対象とした交通教育の実施、ノーマイカーデーの呼びかけ、商店街との連携による買物特典の仕組み等を導入。

自己評価のポイント

乗降調査、アンケート調査、コミュニティバスの試験運行等により必要な調査を行うとともに、法定協議会において公共交通空白地域の住民を対象にグループヒアリングも行いながら合意形成を図っている。

二次評価の方向

- 次に掲げる点についてアドバイスする。
 - ・新たな循環バス路線の構築、公共交通空白地域への路線整備等に当たっては、既存のバス交通体系等との整合、役割分担等に留意の上、検討すること。
 - ・待合所機能の整備に当たっては、まちづくり施策との連携に留意の上、検討すること。